

令和4年度 第2回八尾市芸術文化振興審議会

日 時：令和5年3月16日（木） 午後6時～午後8時
開催場所：八尾市商工会議所3階 多目的室・セミナールーム
委員：藤野（会長）、木ノ下（副会長）、大嶋、阿部、大内、大久保、鈴木、
高安、中尾、萩原、細合 ※敬称略
事務局：新堂、式、出水、時田、川井（文化・スポーツ振興課）
北芝（文化振興事業団）
傍聴者：0名

1. 開会

事務局より配付資料の確認。

2. 審議

案件（1）令和4年度高校合同文化祭プレイベント企画の実施結果と事業評価について

事務局より資料1-1、資料1-2、資料2、参考資料に基づき、令和4年度高校合同文化祭プレイベント企画の実施結果と事業評価について説明。

- 高校合同文化祭プレイベントの実施結果について
 - ・開催概要
 - ・開催までの経過
 - ・運営体制
 - ・収支状況報告
 - ・広報
 - ・アンケート集計結果
- 事業評価について
 - ・リーディングプロジェクトの評価
 - ・アンケート調査結果に基づく成果の検証
 - ・ロジックモデルによる成果の検証

※本来は開催前に「やおうえるかむコモンズ推進会議」で作成するものであるが、時間の都合上、事後に事務局にて作成を行った。
- 次年度以降のイベントに向けて
 - ・令和5年度以降の予算措置
 - ・人員体制

会長○本年度実施したリーディングプロジェクトの一つ「高校の合同文化祭」のプレイベントについて報告をしていただいた。その後、アンケート結果に基づく成果の検証及びロジックモデルを使った分析結果等について説明をいただいた。やおうえるかむコモンズ推進会議で実施した報告を受け、リーディングプロジェクトを八尾市芸術文化振興審議会では評価するのは、今回が初めてのケースである。皆さんにおかれては、アンケート調査結果とロジックモデルによる報告を聞いた感想、次年度のイベントに向けてめざす目的を踏まえたご意見や助言をいただきたい。また推進して実施したものに対してこの審議会が評価することになるが、その評価方法についても、このような形で良いか、皆さんと議論したい。まず、実際にこのイベントに推進委員として関わった方にお聞きをしたい。

A委員○準備や撤収などにたっぷり携わることができたわけではないが、高校生とのミーティングに関わらせていただき、高校生が思った以上に前向きで積極的に参加している印象を受けた。会議室といった形式ばったところでミーティングを行っていなかったことも要因だと思っており、コワーキングスペース（Nuts）や八尾市文化会館（やおうえるかむガーデン）にて行ったため緊張感が和らいだのではないかと。コワーキングスペースでのミーティング終了後は、高校生が自主的に残っ

て他校の生徒と談話している姿がとても良い印象を受けた。ただ、周りにいる大人が何者か分からない状態で見られている状況が続いており、少し授業参観のような雰囲気があったため、高校生と同じ目線に立つことは無理かもしれないが、もう少し面白くできる仕組みがあっても良いのではないかな。普段高校生と関わる機会がないと思うため、推進会議のメンバーはしっかりコミュニケーションを取る方法を考えていっても良いのではないかな。

- それから協賛について、今年度は準備期間の都合で協賛金だけになっているかと思うが、私自身八尾市で色々なイベントを開催した際、協賛金だけではなく、物品協賛も頂戴することがある。ラピス株式会社によくお世話になっているが、歯ブラシの持ち手のデザインを色々変え、物品協賛してくださることもあるため、例えば高校生のイラストを歯ブラシの持ち手に描くこともお願いできるのではないかな。
- 最後にロジックモデルの関わる人（ステークホルダー）「参加した高校生」について、私も大学時代から色々と活動してきた中で継続が一番難しかったが、短期（意識）から中期（行動）に移るところが同様に難しいと思っている。短期（意識）の「自分で考えたことがイベントになり、達成感を味わえた」から中期（行動）の「本イベントに関する前向きで自発的な関わり」に移行することは、簡単なようで非常に難しいと思っており、学校の行事として文化祭を開催すると言えば、半強制的に参加する形になるが、外部のイベントになった際、高校生たちは前例を引き継がなければならないと思い、モチベーションが保たれるのかが非常に不安だ。そこでイベントに関する達成感だけではなく、何らかの学びやフィードバックがあった方が良くと思う。例えば次回からイベントのチラシを高校生が作成したり、会場を選ぶ際は高校生がプロの方にアドバイスを頂戴する仕組みを作れば、プロと繋がる機会を得ることができ、短期（意識）から中期（行動）に移りやすいのではないかな。そうすればロジックモデルの長期（状態）において「高校生活の充実した思い出となり、八尾や出身校に愛着を持つ」だけではなく、自分のスキルとして得るものがあるのではないかな。

B 委員 ○ 私どもの「FMちょお」は会期中の前後でインタビューをさせていただいた。インタビューしたスタッフによると「他校と交流ができたことが非常に嬉しかった。」「他校の作品とかを見て刺激になった。」という声が印象に残ったそうだ。高校で開催する文化祭の基本的なイメージについて、文化系のクラブだけが発表するわけではなく、各クラスでも発表するという二本立てになっており、生徒自身、クラスの発表とクラブの発表があり力が分散されている。男子高校生からお聞きした話が社内で話題になったが、今回の高校合同文化祭に関しては団体に光が当たるのではなく、プライベートで絵を描いたり、取り組んだ個人に光が当てられインパクトがあったという面白い話をお聞きした。そういった意味で、より個人に光が当たる活動の文化祭になったのではないかなと思う。逆に言えば、ロジックモデルの長期（状態）「高校生活の充実した思い出となり、八尾や出身校に愛着を持つ状態」の次のステージで、例えば自分の作品に愛着があり一層能力を伸ばすため、自分の作品に対してプライドを持ちつつ、次のステップまで話を進めていくことができるのではないかな。

- C 委員 ○ 私は高校生のミーティングに2回参加させていただき、展示も見せていただいたが、「やおうえるかむコモンズ」のリーディングプロジェクトの第一歩としては、小さな一歩だったが取り組んだ価値はあったと思う。ただ反省点の方がたくさん見えた。例えば今回の美術展は既存の作品をただ展示しただけだったため、学校の中でも広がりが出なかったと感じている。学校の中でもさらに熱量があるものにしていくべきではないかなと思っている。ただミーティングに参加した高校生は思った以上に意見を持っていた。さらに交流を重ねていくうちに、たくさんの意見が出て非常に熱量があったため、我々は高校生の意見をしっかりと吸い取り発信していきたい。また各校でもその熱量を伝えていってもらわないと、今回の展示に関しては熱量という意味では広がりが弱かったと思う。準備期間が短いことも要因の一つだが、高校生のパワーをもっと吸い上げ、それを市民レベルまでさらに広げていくにはどうすれば良いのか我々の方で考えていかなければならない。
- 今回は「静」の展示だけになったが、令和5年度はサテライトスタジオで開催する予定であることから「動」の部分も見せていきながら、市民の方にもっと目を向けていただく活動を行っていかねければ、「やおうえるかむコモンズ」のリーディングプロジェクトとしては、まだまだ発信力も弱いと思う。そのために推進会議やワーキンググループのメンバー、審議会のメンバーがどういった役割を担っていけば良いのかさらに考えていくべきではないかな。彼らが勝手に取り組んでい

るのではなく、我々は彼らの取り組みをどのようにサポートし、広めていけば良いか考えていかなければならない。

会 長○推進会議の委員として携わってくださったのは以上の3名である。では、会場を提供された八尾市文化会館のご意見やご感想を伺いたい。

D委員○今回初めてリーディングプロジェクトということで推進会議が発足したが、初期段階は八尾市の主導で取り組んでいたため、今年度は文化振興事業団からは部会メンバーとしての参加、及びフォローアップとして2名追加で携わった。通常八尾市文化会館は、吹奏楽の発表やダンス、演劇など舞台を使用するもの、それ以外は小・中学校の展示会や高校・大学の書道展や絵画展といった展示室を利用するものを開催していただいたり、文化振興事業団で主催したりしている。今回の「高校生の大美術展」は、高校の枠を超え、高校生の展示物を色々な場所で展示していただくということで、従来まで文化振興事業団が主催事業として来ていただいた層とは異なった層の交流が見えたと思った。保護者の方や関係者の方も来場されたりと、光のプラザや回廊ギャラリーを新しい層の方に来ていただいたり、回遊性が高まった。通常指定管理業務を実施している文化振興事業団では手が回らない「やおうえるかむコモンズ」のリーディングプロジェクトを実現していただき、有難かった。

○次に、文化振興事業団はホールや展示室、レセプションホール、会議室を利用する大きな規模の方々と一緒にするが、今回はアニメのセル画など、本当に小さな作品の小さな規模の展示といった、文化振興事業団が想定する一歩も二歩も手前の小さな場所を自由に自発的に利用していただくことができた。地域の色々な小規模の会場を利用し、最終的に八尾市文化会館を利用するというお話もあるが、今回は八尾市文化会館を利用し、次は違った場所で開催し、また八尾市文化会館に戻って来るといった片鱗が見えたと思った。

○最後に、本事業を今後様々な会場を利用していくという点で、八尾市文化会館での展示の規模であっても準備から開催にいたるまで人手も物品も必要で大変だったと思う。新たな会場での開催となれば大変さが増し、一層それを繋ぐコーディネート能力及びコーディネーターの育成が必要だと思う。コーディネーターの育成について、モチベーションとスキル、多少の失敗にも挫けないレジリエンス（しなやかさ、折れない強さ）も必要だと思う。今後はそういった人材育成もしながら広げていかなければならない。

会 長○ロジックモデルを参考にしながら色々なご意見を頂戴したが、このロジックモデルは審議会で作るものではなくて、推進会議で作成するものである。今回は時間の都合上、事後に事務局で作成をした。今後は推進会議においてワークショップ形式で作っていくのが良いと思う。ロジックモデルは完璧なものではなく、あくまで仮工程のようなもので、逆に固定化してしまうと怖い部分がある。絶対的な価値ではなく、今回は初期条件に関わる人（ステークホルダー）だが、これで良いのか根本的な問題もある。そうするとステークホルダーがどのように変わっていったのかというアウトカムは一つの指標として出てくるが、「やおうえるかむコモンズ」を考えると、ステークホルダー相互がどのように作用し変換していったか非常に重要である。そのため、「アート×○○（ほかの分野）の相乗効果の成功事例」と記載しており、アートと他の分野との相乗効果もあるが、色々なステークホルダーの相互作用による効果によってまちがどのように変わったかということも非常に重要となる。ステークホルダー毎に横方向にどのように変化していくか記載しているが、今後は縦方向にステークホルダーをどのように混ぜ合わせていくか考えていかなければならない。ロジックモデルはいくつかの線を引かないと整理できないため、デメリットとメリットの両方あると思う。芸術文化は曖昧で長期的にしか成果が分からないため、あえて見える化するために作成したが、逆に言えば芸術は曖昧混沌としていて長期的にしか分からないからこそ、意味があるという反論もできる。そういった意味で言うと、ロジックモデルは絶対的なものではないと捉えていただければ良いと思う。ここでは社会的インパクトの効果が重要になるが、文化事業に関しては、教育的インパクトが非常に大切である。また経済的なインパクトである「企業等協賛者」について、長期（状態）が「収益事業への横展開を考えたい状態」になることも重要な側面である。だが公共政策や非営利事業の場合は、主にソーシャルインパクトによって社会がどう変わったのか分析するために使うことに有効なモデルだと考えていけば良い。それでは、他の委員のご意見も聞きたい。

E 委員○知人の高校生が作品を出展しており、その方からお聞きした話も含め、今回「まちのコイン」を利用したことが気になった。他市でも「〇〇コイン」が増えており、コインを集めるために足を運ぶ方もいらっしゃるようで、今回の美術展でも友人が出展しているから伺ったが時間の都合でコインだけを貰いに走ったという話も伺った。今回、エコバックが貰える1500やおやおは大きなポイントなのか。

事務局○「まちのコイン」に新規登録すると500やおやお貯まり、1階から5階の展示や学校紹介映像を見て、アンケートを提出すれば1500やおやおになる。導入した意図としては「アート×〇〇（ほかの分野）」の掛け合わせを考えていく中で、商業施設の方に買い物に行く方がたまたま展示を見かけて興味を持つというきっかけづくりも含んでいる。そのため、コインを集める目的も想定しつつ、そういった方でも興味を持つきっかけになればと思い、導入させていただいた。

E 委員○「まちのコイン」を導入しなかった場合でも、今回の結果が出れば次に繋がりやすいと思う。インセンティブ（動機づけ）は必要あるのか。

事務局○「まちのコイン」によりインセンティブが働いて、今回足を運んだ方もいらっしゃると思う。ただその方々の割合まで推し量ることはできないが、美術作品を見たいという目的ではなくても、一つのきっかけになればと思い導入した。評価内容の改善にあたって、今後は「まちのコイン」や他の仕掛けも検討していくが、それらを取り除いたときにどのような結果が出るかという視点はしっかりと持ちながら、「高校合同文化祭」をはじめ、その他の取り組みについても進めていきたい。

E 委員○今回の「高校合同文化祭」の内容は絵画などの展示が中心だったが、今後もダンスといった文化系だけが増えていき、一般的な学校の文化祭のように食品関係の出店などもあるのか。

事務局○今回は時間の都合上、少し型にはまった形で実施したが、雰囲気の和らいだ場所でミーティングした際には高校生から大人では考えつかないような意見があった。次の開催に向けては、そういった内容も踏まえつつ、次に参加していただく高校生にはできる限り企画から入っていただき達成感も感じていただければと思っている。今回は展示が中心になったが、ダンスやバンド、書道などもできれば良いと思っている。

E 委員○文化系ではない高校生も多いと思うが、こういった合同祭をした際、自分自身はあまり出たくないが、周りが出るから仕方がないという強制的な部分もある。今回の「高校合同文化祭」に関してはどうか。

事務局○高校生でグループディスカッションをした際、「八尾市内で鬼ごっこ」といった意見もあり、あまり文化芸術という枠だけに囚われていなかった。そのため芸術文化の取り組みではあるが、決まった型に囚われることなく、できる限り高校生の意見を聞き可能ならば実現していきたいと思う。

F 委員○私自身、「高校合同文化祭」に伺ったが、鑑賞していらっしゃる方も見かけたため、アンケートの集計数（57件）よりもさらに多くの方が来られていると実感した。どうすれば中学生が「高校合同文化祭」に興味を持つか考えていたが、開催時期が1月であれば、中学校側から言うと3年生は進路選択がすべて終わっている状態であり、2年生にとっては先の話になるため興味が湧きにくい、1年生にとってはさらに将来的な話になるため関心が湧かない。次回は11月頃の開催予定であることから、3年生は少し興味を持つかと思う。そのため学校説明会の案内を一緒に行うことは良いと思うが、出張説明会というのはどういったイメージなのか。

事務局○今後高校の先生方と協議が必要となるが、各校の先生に来ていただくイメージかと思う。

F 委員○高校の先生1人に対して大勢の前で説明することも一つだと思うが、そこに集う中学生はおそらく個別に各校へ出向くと思う。そのため一対一で個別に相談できるブースを作る方が、保護者の方や生徒にとってニーズはあると思う。実際に大阪府立の港南造形高等学校や工芸高等学校といった美術系専門学校の競争率は依然高いままで推移しているため、生徒に対するニーズは必ずあると思う。実際に

そこまで足を運びにくくとも、八尾市内の学校でそういった芸術的な活動ができないか探している生徒は必ずいると思うため、学校やクラブの活動内容などより具体的に相談できる機会があれば興味を持つ生徒はおそらく出てくると思う。

G 委員○「高校合同文化祭」のスケジュールを拝見し、色々と課題はあったとお聞きしたが短期間の準備で開催できたことは非常に素晴らしいと思う。私の専門は演劇で、他の自治体の中学校や高校の演劇祭や文化祭に関わったり、コーチで入らせていただいたりしているが、その経験を踏まえると、学校の枠を超え同世代で表現活動の交流を行うことは彼らにとって重要なことで、それが今回の「高校合同文化祭」を実現した経緯だと思う。その場合一番重要なことが人員体制であるが、どのように継続し開催していけば良いのか。私の経験から、この「高校合同文化祭」に参加した高校生がいずれコーディネーターになっていくと思うが、そこまで最短で5年ほどの年月が必要で、途中で抜けることもあるため、最後には1人残っているかどうかである。10年程度かかると考えておいた方がよい。しかし、その中で何名かはコーディネーターとしてスキルを学び、自然と育成されて行くと思うが、予算を拝見すると人件費を取っていなかったため、その方向性を支えて行くことができるのか少し気になった。

H 委員○八尾市内の画材屋が廃業した経緯には、高等学校の授業科目に美術がないからだとして以前お聞きした。そのためクラブ活動として取り組んでいるのであれば立派である。私も「高校合同文化祭」を拝見したが、明るい作品ばかりで非常に良かった。それから先ほどご意見があったように市民レベルでどう波及していくのか、八尾市には八尾美術協会があり、その会員の方々との交流も将来的に模索できるのではないかと。

I 委員○「高校合同文化祭」をはじめ、企画にあたって推進会議に積極性が必要だと思う。イベントなど開催するにあたって大変な時間を要するが、関係者全員に時間の余裕がある訳ではない。今回の開催にあたり開催内容は良かったが、ロジックモデルの「アート×○○（ほかの分野）」について、いつも利害のあるものとアートが結びつかないといけないう。PRのためにアート作品の展覧会として開催することは非常に容易でリーディングプロジェクトに適している気もするが、来場者にとっては利害が見えた瞬間に芸術的鑑賞はゼロになると思う。難しい局面であるが、お金儲けと思った瞬間にアートそのものの芸術的価値を逸してしまう。そこへ到着してしまえば不快に感じる。

○それからロジックモデルの「企業等協賛者」について、スポンサーにとっては利害がなければ協賛しにくいと思うが、場所の提供もあり得るのではないかと。

○次に自分たちが手がけるイベントについては、相容れない所から共同開催を持ちかけられるのは困る。先ほども強制的という言葉が出たが、自主参加と設定していても、実際には自由意思が少しずつ強制に変わっていく。ボランティアなど半強制的な部分がなければ、動員できない。そういった呼びかけをどのように行っていくのか。「ロジックモデル」の短期（意識）に「自分達が考えたことがイベントになる」ことは非常に面白いと思うが、おそらく大多数は考えを持っていないと思うため、引き出す方法を検討しなければいけない。

○最後に今回の「高校合同文化祭」は非常に面白いところに着目したと思う。

会 長○「八尾市芸術文化振興審議会」と「やおうえるかむコモンズ推進会議」の二本立てにしたことは八尾市の大きな特徴である。推進会議は色々なプロジェクトを立案し、企画運営していくための推進母体になっている。それに対し、審議会は進捗管理及び評価する立場になる。またリーディングプロジェクトについて、半強制的な感じが見受けられるという意見があったが、皆さんと一緒に作った「八尾市芸術文化推進基本計画」が七つの施策から成り立っている。三番目の施策では「芸術文化を深く味わう機会の提供」と掲げており、八尾市文化会館が一番中核的に取り組んでいる。芸術文化により深く親しむことは非常に重要だが、施策2では芸術文化に縁遠い方のために「芸術文化につながる機会の提供」を掲げ、裾野を広げることを目標としている。「やおうえるかむコモンズ」について、施策1に掲げる「芸術文化による創造及び交流の基盤の形成に係る体制及び仕組みの整備」に取り組む仕掛けづくりのため、プロジェクトの一つとして「高校合同文化祭」を位置付けている。

副会長○高校生は自分の取り組みを自由意志の中で選択しており、そのうえ今回の「高校合同文化祭」ではクラブが中心となっていることから、強制的といってもおそら

く自主的な意識はもともとあるのではないか。だからこそ今回積極的に参加し、他校との対抗意識や自負は持っていると思う。次にロジックモデルの関わる人(ステークホルダー)に「コーディネーター」つまり「マネジメント」が不足しており、コーディネーターがプレーヤーとして記載されていないロジックモデルは不備がある。今は八尾市が事務局として取り組んでいるが、本当にそれで良いのか。今回の「高校合同文化祭」では高校生の学びが重要だったと思うが、その内容やどのような社会的影響を受けたか、主催者の意図が伝わったかなど、そういった検証を実施していたのであれば、そのデータをこの場で提供していただければ事業評価できない。

- また教育プログラムをリーディングプロジェクトに位置付けているが、「まちのコイン」といった商業的な分野と教育分野の組み合わせにぶれを感じる。そういった意見が出てきた際、主催者側のロジックモデル(事業目的)を提示しなければならないが、軸がぶれており惜しい気がする。主体性が見えづらいところが少し気になった。

事務局○「高校合同文化祭」は「八尾市芸術文化推進基本計画」の中で、国の「文化芸術基本法」が改正された内容に基づき、社会的・経済的価値も含めた多様な価値を、観光まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策と有機的に連携させるよう配慮すること等が求められている。また「八尾市第6次総合計画」の中で、「芸術文化の魅力を活かした豊かなまちづくり」をめざす姿で掲げている。ロジックモデルの「アート×○○(ほかの分野)」について、営利という部分が見えると芸術文化としては興ざめだというご意見があったが、決してそういった意図ではなく、他の分野と連携していくことで、より芸術文化の楽しみの幅も広がる部分もあり、その他の分野の取り組みとも良い効果が出てくるであろうという意味で記載させていただいている。

- それから「芸術文化を深く味わう機会の提供」について、裾野を広げることも重要だと思っており、「まちのコイン」といった仕掛けも導入しながら、今まで芸術文化に興味や関心がなかった方にも触れる機会を作って行くことができればと思っている。

- 副会長のご意見にあった「ぶれ」について、どういった意味か。

副会長○教育目的として取り組んでいる高校生のプログラムに、「まちのコイン」を導入することが本当にふさわしいのか。芸術活動が非営利であれば、逆に言うとアーティストの負担になるため、私は極論で言えば文化芸術は営利で良いと思っているが、教育目的で取り組む事業に「まちのコイン」という営利的な仕組みを導入することでオーディエンスにふさわしい方が来ているのか若干のずれとぶれを感じるということだ。教育とは別のプログラムに当て込む方が本来の目的と需要及び対象が合っているのではないか。裾野を広げると容易に言うが、本来の目的が達成されているのか。取り組み方を間違えると単に商業的な部分が目的化されているだけになっていることがよくある。来場者数のデータを取っていないのに、アンケート結果だけでどのように評価するのか。来場者数と高校生の意見が欠けているのは、ロジックモデルになっていない気がする。

会 長○「やおうえるかむコモンズ推進会議」はイベント屋ではなく、イベントを通じてネットワークづくりのための会議と認識している。また「高校合同文化祭」のロジックモデルについて、一番達成したいものは何かをその都度確認していく必要があるのではないか。推進会議でも先ほどの厳しいご指摘を受け、ロジックモデルを上手に使うって取り組んでいきたいと思っている。
それでは案件の2「やおうえるかむコモンズ推進会議の実施状況」について事務局より説明をお願いしたい。

案件(2) やおうえるかむコモンズ推進会議の実施状況について

事務局より やおうえるかむコモンズ推進会議の実施状況について 説明。

- 推進会議の取り組み状況
 - ・ 第2回全体会の開催
- リーディングプロジェクトの実施状況
 - ・ 「高校生の大美術展」の開催
- ロゴ募集企画
 - ・ 実施スケジュール
 - ・ 11月開催予定の「高校合同文化祭」のチラシやポスターに使用

- ・「やおうえるかむコモンズ」の取り組みで積極的にロゴを活用し周知を図る
- J : COMの地域密着番組 「LIVEニュース」
- ・令和5年度の上半期中に「やおうえるかむコモンズ」のコーナーを作ることをめざす予定
- 令和5年度の「高校合同文化祭」プレイベント
- ・実施スケジュール案
- ・イベント全体の企画を決定するフェーズ（生徒会など校内への発信を重視）と、開催会場や展示内容といった個々の企画を詰めていくフェーズ（関わる部活の生徒たちの参加）
- ・令和4年度の参加者（新3年生）と新2年生の引き継ぎの場を兼ね、5月から打ち合わせ開始
- ・開催場所候補について、候補場所に打診したところ、数か所から了承を得る

会 長○事務局の説明をお聞きし、アートプロジェクトに近づいており、まちにしみ出て出来上がってくる。ただ高校の美術部や音楽的なサークルが取り組んでも、既存の芸術概念に囚われている部分が多いと思う。この20年間の間に取り組まれていった日本のアートプロジェクトも参考にしてもらおうと良い。今年の秋に開催する新長田の下町芸術祭が良い事例だが、一千万円以下の予算規模で非常に面白い展開をまちなかで行っている。

○それから今後の検証の仕方として「高校合同文化祭」を委員の方に視察し、具体的な評価や提案を行えるようにしていただきたいと思っている。

3. その他

事務局○今期の八尾市芸術文化振興審議会の任期（令和5年3月末まで）について

○令和5年度の第1回審議会について

- ・今年の秋頃に開催予定であり、次期審議会委員については現在検討中。
- ・「八尾市芸術文化推進基本計画」の令和4年度の実績報告や、「やおうえるかむコモンズ推進会議」の実施状況報告を行い、その評価や次年度に向けた提言をしていただく予定。

会 長○今期の審議会は本日で終了となるが、来年度からの次期審議会での議論がより充実したものとなるよう、2年間の会議のご感想やご意見などをお願いしたい。

A 委員○私自身こういった審議会に今回初めて参加したが、アートやデザインが好きなため、たくさん学びがあり単純に楽しかった。今後「高校合同文化祭」をはじめ、色々な取り組みがあるかと思うが、ぜひ一緒に関わることができればと思う。

E 委員○私は舞台に立つ側の一人として、この審議会に関わらせていただいた。今後舞台の仲間たちにも八尾市芸術文化推進基本計画の中で生まれたことや、芸術文化に触れていない方々にどのように入って来ていただくかなど伝えていきたい。

F 委員○委員となったのは今年度だけで、もともと芸術は担当科目ではなかったため無縁だったが、今後まちを歩く際は絵画などに関心を持っていきたい。

B 委員○八尾市の芸術文化に長い間携わらせていただき、コーディネーターの育成は非常に重要だと思う。今後そういったことを色々と学びながら、私自身も考えたいと思う。

事業団○事業団として八尾市芸術文化推進基本計画をもとに、どの施策の実現に向けどういった事業ができるか考え企画している。自主事業のチラシには基本計画のどこに寄与する事業が記載しているが、この審議会を通してより深く考える機会を与えていただいた。

D 委員○長い間芸術文化の分野に携わらせていただいているが、審議会や推進会議が発足したことは大きな前進だと思う。他の自治体では、外郭団体である財団が指定管理者であっても行政と連携が取れておらず、現場の意見が反映されないまま条例が作られ、指定管理の要項の中に規定されているものの、齟齬があり摩擦が起こるといった事例をよく聞く。しかし八尾市と文化振興事業団は普段から連携を取り合うことができている。今後の推進会議や審議会にも期待している。

I 委員○八尾市芸術文化基本条例の制定に立ち会えたこと、意見が言えたことを非常に嬉しく思う。

C 委員○私は茶吉庵という場を作るまで、芸術文化に触れることがなかった。このようにプレーヤーの方々がたくさんいる中で、芸術に触れていない市民の気持ちになって夢や希望を語っていたと思うが、条例にも反映していただいた部分もあり、非常に嬉しく思う。八尾市に芸術文化が広まり、魅力的なまちになっていけば良いと思う。またプレーヤー以外の立場で茶吉庵という場所を提供しながら、今後もお役に立つことができれば良い。

H 委員○八尾市芸術文化基本条例が制定する際に委員として携わらせていただいたことに感謝している。今後も八尾市謡曲協会のメンバーとして励んで行くことができればと思う。

G 委員○八尾市芸術文化基本条例や八尾市芸術文化推進基本計画を作っていく場に携わらせていただいて勉強になった。私は八尾生まれ、八尾育ちであるが、そういったことを忘れ表現活動をしていた。しかし審議会の委員として務めさせていただく中で愛着が湧き、八尾市に戻って来ることが増えた。今後も何かお役に立てることがあれば、ぜひ協力して行きたい。

副会長○審議会の前身である市民会議、あるいは八尾市文化会館の指定管理者の審査などに携わらせていただいた。私も長年八尾市に関わった中で、八尾市芸術文化基本条例が制定されたことが一番の成果として非常に良いことだと思う。他方でこれを絵に描いた餅や、誰かが取り組みたかったことではなく、八尾市第6次総合計画の中にどのように位置付けられて行くのか重みを増すことが、実態とともに非常に重要なことだと思う。私も複数の自治体で条例や規則を作る立場にあるが、条例を制定しただけで終わる場面を見かける。そうならないように実行部隊である推進会議のメンバーがいらっしゃることは非常に重要だと思う。審議会のメンバーは、推進会議を客観的に評価し、次の高みに進めるよう助言する役目を負う。そういったことが八尾市において位置付けされれば、予算を増やすことが職員の方々の役目かと思うため、職務として頑張りたい。八尾市芸術文化推進基本計画が形になって行く姿を陰ながら見守りたいと思う。

会 長○私は3年ほど関わらせていただいた。20年ほど色々なまちで条例や計画を作るお手伝いをして来たが、現在1700ほどある自治体の中で、文化に関する条例を制定しているところは9%ぐらい、基本計画を策定しているところは18%ぐらいしかない。そのため行政の取り組みとして任意的な部分となっているが、任意だからこそ、個性が発揮できる分野でもある。その点で八尾市はすでにその個性を発揮しつつあり、ノリが良い地域だと思う。私は審議会の中で新参加者だったが、八尾市に来ることがとても楽しくなった。そういう方はたくさんいらっしゃると思う。ノリの良い、将来性がある地域だと心から感じている。また委員になってくださった方は16名いらっしゃるが、様々な分野の方がいらっしゃる。文化関係者だけではなく、会社の経営者の方や福祉関係の方、メディアの方といった様々な分野の方が参加されていることが特徴的で、その多様性は非常に良かったと思う。

○それから、私も中核施設と自治体の条例や計画がジョイントしていない場面をたくさん知っている。その中で八尾市と文化振興事業団はきっちりジョイントできており素晴らしい。もともと八尾市文化会館は全国的に有名な施設だったが、一極集中のようになっていた。それが文化的コモンズ「やおうえるかむコモンズ」により面に広がりつつあることは、全国に誇って良い状態が生まれつつあると思う。そのための仕掛けづくりとして、審議会とは別に推進会議を立ち上げることができた。これは日本で初めてのことだと思っているため、ぜひ推進し成功させていきたい。また次第にこの取り組みが外部から注目をされつつあり、八尾市に視察へ来るようになってきた。やはり外から注目されることは非常に重要で、それが地域プライドを持つシビックプライドに結びついてくるため、八尾市は文化のまち、コモンズのまちだと全国から注目され視察が来るようになってほしい。

4. 閉会

●本日の会議の内容についてはホームページへの掲載を予定しているため、各委員へ内容の確認を依頼

●魅力創造部長より挨拶

(以上)